

大阪医科大学健康科学クリニック PART3

オプション検査のご案内

健康科学クリニックでは、前回ご案内した各種コースの他にさまざまなオプション検査もご用意しています。以下に主要な検査についてご案内いたします。なお、4月以降は一部の検査が個別に受けいただけるようになります。

A. 女性特有の検査

◆乳腺の検査

乳腺エコー検査 超音波により乳腺や乳管の状態、腫瘍の有無を調べます。乳がんを早期に発見するための検査で、20～30歳代の方に適しています。

マンモグラフィ検査 早期乳がんのサインとなる石灰化や、しこりとして触れないタイプの乳がんを発見するのに効果的で、40歳以上の方に適しています。

◆婦人科(子宮・卵巣)の検査

子宮細胞診(頸部)検査 子宮の入口付近を綿棒などでこすって細胞を探取し、子宮頸がんや前がん状態を検査します。

経腔エコー検査 超音波により小さな子宮筋腫や卵巣の腫瘍の有無、子宮内膜の異常などを調べます。検査は短時間で、痛みを伴いません。

B. がんに着目した検査

◆胃の検査

胃カメラ検査 電子スコープにより上部消化管の状態を詳しく観察します。

胃バリウム検査 パリウム(造影剤)を使用して、胃内部や形全体を観察します。

便中ピロリ菌抗原検査 便により胃がんのリスクであるピロリ菌抗原の有無を調べます。

血中ピロリ菌抗体検査 血液により胃がんのリスクであるピロリ菌抗体の有無を調べます。

血清ペプシノゲン検査 血液のペプシノゲン濃度を計測し、胃がんのリスクである萎縮性胃炎の進行度を検査します。

◆肺の検査

胸部CT検査 胸の横断面を輪切りに細かく撮影し、肺や心臓、大動脈などを画像にします。レントゲン検査では見えにくい肺がんの早期発見や、その他の肺疾患の診断に有効です。

◆腹部の検査

腹部CT検査 腹部の横断面を輪切りに細かく撮影し、肝臓から骨盤内までの腹部を画像にします。腹部の全臓器に異常がないか検査します。

C. 動脈硬化に着目した検査

頭動脈エコー検査 頭動脈(首の動脈)に超音波をあて、血管内のブラーク(動脈硬化病変)を調べます。

ABI(血圧脈波)検査 両手・両足の血圧と脈波を同時に測定し、血管の硬さや下肢動脈の狭窄の有無を調べます。

D. 脳の病気に着目した検査

MRA+MRI検査 MRA(磁気共鳴血管撮影)およびMRI(磁気共鳴画像法)により脳の萎縮の程度を調べたり、脳疾患(梗塞、出血、動脈瘤)の発見に有効な検査です。

他にも各種のオプション検査を取扱っていますので、詳しい内容はWeb (<http://www.omchsc.jp/doc/option.html>) または健康科学クリニックのパンフレットをご覧ください。

訪問看護ステーション開設のご挨拶

訪問看護ステーション 管理者 林 佳美

平成27年1月5日、学校法人大阪医科大学『大阪医科大学訪問看護ステーション』が開設されました。

このたび、訪問看護ステーションの管理者を拝命いたしましたので、ご挨拶を申し上げるとともに『大阪医科大学訪問看護ステーション』の紹介をさせていただきます。

現在、わが国は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでおり、団塊の世代の方々が75歳以上となる2025年には医療・介護の需要がさらに増加すると予測されています。そのため、わが国の保健・医療・福祉体制は大きな転換期を迎えており、とくに地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築が喫緊の課題となっています。

高槻市および周辺地域においても高齢化率約26%、2025年には高齢化率35%を超える見込みです。このような地域社会のニーズを踏まえ、大学病院として高度急性期医療を提供するとともに、地域の中核的な医療機関として地域完結型医療を目指した医療提供体制の構築に貢献し、在宅医療を推進するためには訪問看護の役割が非常に重要になっています。

大学の訪問看護ステーションとして、医療的処置等の必要性が高い方でも本院からの継続的な看護を提供することで、安心して住み慣れたご自宅で過ごしていただけることをを目指しております。

入院中の段階から患者さまやご家族がご不安に思われていることや必要な支援について、院内の医師・看護師・医療ソーシャルワーカーと相談し、退院までにかかりつけ医、ケアマネージャー、他の訪問看護ステーション、訪問リハビリ等とともに、退院後のサポート体制を調整いたします。退院後は、私たち訪問看護師がご自宅に伺い、かかりつけ医の指示のもと病状観察や内服薬、点滴、人工呼吸器、在宅酸素、床ずれや創部の処置などの管理方法など、患者さまやご家族が安心してご自宅での療養生活が送れるように多職種と協働してサポートを行ってまいります。

今後は、皆さまよりご意見をいただきご期待にそえるよう尽力してまいりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



〈ご相談〉

時間帯: 平日

午前9時から 午後5時まで

TEL: 072・684・6776

FAX: 072・684・6792



各病棟・広域医療センターにて
ご案内がございますのでご覧ください。

市民公開講座

第7回 平成27年1月17日



糖尿病のウソ?本当?

内科学Ⅰ教室 糖尿病代謝・内分泌内科
寺前 純吾

糖尿病は「血糖病 ≈ 血管病 ≈ 全身病!」

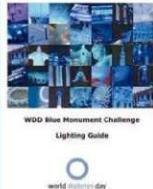
わが国では成人の5人に1人が糖尿病およびその予備群といわれる時代になりました。世界的にもぐんと比較的貧しい国々で増えていますが、かつて貧困病といわれていた時代は様変わりしました。脂質の取り過ぎをはじめ、摂取する糖質(炭水化物)の質やライフスタイルの変化、さらに現代社会に生きる私たち自身の精神活動(思考)の変化も大きく関与していると考えられます。糖尿病は「尿に糖が出る病気」と書きますが、その正体は血液中の糖(ブドウ糖)が慢性的に高くなっている状態(血糖病)で、そのため全身に張り巡らされているすべての血管に障害が生じ、さまざま合併症を引き起こします。このように糖尿病は血管病であり全身病といえます。

インスリンの重要なはたらき

血糖値が少々高くても何の自覚症状もありませんが、どんどん上昇してくると、のどの乾きや多尿といった症状が出てきます。さらに進むと足のしづれ、疲れやすい、あるいは体重がどんどん減ってきます。インスリンは食後すぐに膵臓から分泌されるホルモンで、体内で唯一、ブドウ糖というエネルギーを細胞に取り込ませ、血糖を低下させる大切なホルモンです。肥満やメタボ状態で糖尿病になることはありませんが、この状態が続くとインスリンの働きが低下し高血糖を招くことになります。



1月14日は
「世界糖尿病デー」



糖尿病治療の3本柱

食事療法、運動療法、薬物療法が3本柱となります。何と言ってもまずは食事療法を続けることが大切です。正しい知識を身につけ、自分に合った方法で無理なく楽しみながら取り組んでいましょう。

看護スペシャリスト
専門看護師・認定看護師の活動

糖尿病をもちながら
生き生きとした人生が
送れるように、
患者さま、ご家族を
サポートします。

糖尿病看護認定看護師 井上 裕美

2012年の厚生労働省の調査によると、糖尿病と糖尿病予備群を合わせると2050万人に達し、成人の約5人に1人が糖尿病かその予備群であることが示されました。年々増加傾向にある糖尿病患者さまに対し専門的な医療、看護を提供することが求められています。

私が「糖尿病看護認定看護師」を目指したきっかけは、糖尿病は今までの生活習慣が反映される病気というイメージが強く、家族や周囲の方だけでなく自分自身でも「自業自得だ」という思いをもちながら生活しておられる患者さまと関わったことです。その患者さまがご家族と協力し合えるようともに考え方、サポートすることで、前向きに治療に取り組めるようになります。患者さま、ご家族と一緒に病気と向き合いながら生活していく喜びを分かち合えたからです。

糖尿病看護認定看護師は、知識や合併症予防のケアの提供、治療に関連した技術の習得支援だけでなく、糖尿病をもちらがら生活することの苦痛や不安の緩和など、療養生活を自分自身で振り返り、考えながら生活に合わせて変化させていくように家族の方も含めた支援を行っていく役割があります。

本院ではその役割を発揮すべく糖尿病看護認定看護師とともに糖尿病看護専門外来を設立し、どんな小さなことでもお話しいただけるようゆっくり時間を取り専用での面談を行うとともに、医師やさまざまな職種のスタッフと協働し、患者さま、ご家族への支援を行っています。これからも患者さまを含めたチームが一体となり、患者さまの声に耳を傾け、糖尿病をもちらがら生き生きとした人生が送れるよう支援していきます。

